

発言No.

16

受付No.

3

令和 3 年 2 月 15 日  
8 時 58 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 2 番

氏名 沖田真治

答弁を求める者

市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

### 1 高度衛生管理型荷さばき所について

当市にとって、念願であった施設「7号荷さばき所」が昨年より供用が開始となり、「4号荷さばき所」も令和4年度の完成を目指している。供用が開始し衛生管理対策を図ることにより、「浜田港四季のお魚」、「どんちっち三魚」、「沖獲れ一番」などブランドの推進、販路拡大や商品開発など、取り組んでいる政策にとって非常に重要な施設であるが、施設を供用し、衛生管理を行うのは主にJF職員と生産者であり、従事者にとって魚価向上、生産性の向上など、メリットがある施設なのか、市の重要施設として十分に機能することでブランド力の向上になるのか、という視点で以下の通り質問する。

- ① 供用開始前から令和2年2月までと供用開始から令和3年2月を比較して7号荷さばき所で扱う魚価に変化があったのか伺う。
- ② 7号の供用開始から現在まで施設利用者から、問題点の指摘やトラブル、それらに対し改善されたことがあったのか伺う。
- ③ 現在使われている木製魚箱が今後、衛生管理基準を満たさないため、使用禁止となり発泡スチロール製かプラスチック製パレットの使用が義務化されることになる。

木箱から発泡スチロール箱になった場合の箱コストの増大、箱の容量がおおよそ半分になることから積み荷の増加、規格外となる魚のロスなど多くの負担が予想されるが、市として漁箱変更にかかる生産者への負担について、考えを伺う。

- ④ 衛生管理を行うため、漁船も仕様変更をしなければならないことから、設備投資が必要となる。水揚げ高が低迷している中、生産者にとって新たな負担となることが予想されるが、市として生産者が衛生管理に伴う新たな設備投資に対しどのように関り支援を行うのか伺う。
- ⑤ 衛生管理対策により生産者の業務量は増えることになり、人手不足が進んでいる状況下で更なる負担が増えることで労働条件が悪化し、さらに深刻な人出不足になるのではと懸念しており、ブランド力を維持していくためにも省力化、効率化を図る必要があり、取り組んでいる自治体もあり、積極的に省力化と効率化を進めるべきだと思うが、市としての考えを伺う。